

発表後のコメント

南湖地区自治会連合会 副会長 西之宮さん

- 人間関係、コミュニケーションが必要なのではないかと思います。
- 長期的な視野に立ってやっていかなければならないことが非常に多いと思いました。
- 親子で参加できる取り組みがあればいい。父兄参観日をうまく利用できると思いました。
- 中学生の方々の発表は、非常に独創力がある。「そういう考えもあるのだ」と思いました。



神奈川大学 荻本先生

いろいろな地域でこういうワークショップに参加させていただいていますが、今日非常に印象に残ったのはみなさん地域のことをよく知っていらっしゃる、関心を持ってらっしゃる。そのベースがあった上で今日の話し合いをされた、非常に素晴らしいと感じました。このワークショップをぜひ他の地域にも紹介していきたいと思いました。今日はありがとうございました。



東京大学 加藤先生

●幸せに暮らすための2つの方法～「知っている幸せ」と「知らない幸せ」

そもそも危険であるということを知らなければ知らないから幸せなのです。しかし、知っていても前向きに取り組むことによって幸せに暮らすことができます。そういう状態を作っていくことが非常に必要なのではないかと思います。そのために意識啓発をしていくのが最初の第一歩ではないかと思います。

●様々な連携が必要

小中学生、お母さん、高齢者もそうですし、学校と地域の連携も重要だと思います。そういう連携を積み重ねていくと、災害に強いまちづくりになっていくと思います。今日出てきた色々な新しい考えも参考にしながら、次は来年の1月のまちあるきまで少し時間がありますので、今日足りなかった部分をみなさんと議論を深めていただくと次回が楽しみになるかなと思います。

～まち歩きの開催のお知らせ～

日時:平成23年1月23日[日] 9:00-12:00

場所:老人憩の家 しおさい南湖

内容:第3回まで進めてきたワークショップを踏まえて、「防災」の視点から、あらためて南湖地区のまちを見ていきます。その後、まちを見た感想を参加していただいた皆様とお話したいと思います。ぜひ、ご都合の良い方は、ご参加ください。

発行:茅ヶ崎市 都市部 都市政策課 発行日:平成22年11月
TEL 0467-82-1111 (内線:2504) FAX 0467-57-8377

南湖地区 防災都市づくりニュース

VOL. **3**

平成22年11月3日[水] 南湖地区防災都市づくりワークショップ開催

第3回 南湖地区防災都市づくりワークショップを開催

第3回ワークショップでは、「南湖地区の強みを考えながら、防災上の課題解決に向けたアイデアを具体化する」というテーマのもと、地域の防災都市づくりについて考えました。第2回ワークショップに続いて、第3回ワークショップでも西浜中学校の生徒さんにご参加いただき、幅広い議論が行われました。

<第3回WSの内容>

日時:11月3日[水] 9:30-12:00
場所:老人憩の家 しおさい南湖
参加人数:46名

- ★グループ討議
「南湖地区の強みを考えながら、防災上の課題解決に向けたアイデアを具体化する」
- ★発表

第3回ワークショップ 話し合いの進め方

テーマ:今から地域でできる具体的な取り組みを考える!

第2回ワークショップで出た課題やアイデアをふまえて、第3回ワークショップでは、4つのテーマから各班で1つ選んで、「今から地域でできる具体的な取り組み」について話し合いました。

前回(第2回)のワークショップで出た課題とアイデア

課題	アイデア
【道路】 狭い道、行き止まりが多い	安全なルート周知、通学路など大切な道から整備していく、ブロック塀・電柱の改善、行き止まり道路の通り抜け等
【家屋】 古い家、ブロック塀が多い	⇒避難ルートの確保
【避難所】 広い避難所(学校)が遠い、南部に集中	寺社・市場・駐車場など集まれる場所づくり 茅ヶ崎漁港を救助活動の拠点に
【要援護者】 高齢者、独居の人多い	⇒活動拠点の設置
【コミュニティ】 地域でコミュニティの差が激しい 新しい人が増えて、コミュニティが希薄化	防災イベント・ゲーム、防災の授業、子どもの防災教育、ミニ防災訓練等 ⇒地域住民の意識啓発
	要援護者・お年寄りマップ、消火・避難・安全確認、中学生との連携、避難ルールづくり等 ⇒体制づくり

第3回ワークショップで話し合う4つのテーマ

①円滑に避難ができるルートはどこか、**避難ルートの確保**をするために今からできることは?

②**活動拠点**となる場所はどこか、拠点確保の方法、そこでの活動内容、広く周知する方法は?

③広く地域住民(特に若い世代)に**意識啓発**するための取り組みは?

④避難や救護活動などをさらに円滑に進めるため、地域の**体制づくり**をどのようにするか?

グループ討議 & 発表！

《B班》 テーマ ③意識啓発

- ★教材 DVD を作る
 - 「見る情報」が必要
- ★お母さん、小中学生を対象に意識啓発
- ★防災協力マークを作成
 - ・防災関連の行事に協力したとき配布
 - 貼ってある家庭同士でコミュニケーションが取れる
- ★父親参観日を利用→親子で防災の意識啓発
- ★防災マップ作りで意識交流を図る
- ★大きな災害を経験している方の体験談を聞く
 - 災害を身近に感じる



《C班》 テーマ ④体制づくり

- ★弱者マップを作成
 - ・独居者、介護が必要な人（車イスの人など）の情報を常に確認・更新することが必要→個人情報の公開範囲の緩和 →市の協力必要
- ★自治会に入っていないお年寄りの救助
 - 民生委員さんに協力依頼
- ★防災リーダーの活用
 - ・役割を明確にする
 - ・各自治会にある自主防災組織のパターン統一



グループ討議 & 発表！

女性班の発表

《D班》 テーマ ③意識啓発

★「防災ウォークラリー」

- ・危険な地域や避難できる場所を歩き、ゲーム感覚で楽しみながら防災意識を高めてもらう

★DVD、クイズ形式で学べる防災の本作成

→遊びながら学べるもの

- ・「地震は怖い、津波は怖い」という意識だけでなく、「災害時にどう動けばいいか」という正しい知識が子供に伝わり、安心する→落ちついた行動ができるのでは？

★みんなが高い意識を持つ

→自分だけでなく周りの人たちを守るようになるのでは？



西浜中学校生徒の発表

《F班》 テーマ 将来のまちの姿

★歴史的雰囲気残した安全なまち

- ・古い家の耐震化

★道の狭さを活かした安全なまち

- ・広くする道路を選択
- ・災害時に通れる道路を確保する

★海の魅力を味わえるまち

→ もっと遊ぶ

★地域との輪が大きいまち

- ・新築住宅街が増えると新・旧住民のコミュニティ少なくなる→新築の家を分散

★若者のパワーとお年寄りの知恵を活かしたまち

→魅力的商店を増やす

